

収穫の喜びを体感

津森小児童が園児とトウモロコシ刈り



上級生の優しい手助けを受け頑張ってトウモロコシをもぎ取る園児

梅雨の晴れ間の6月23日、津森小学校（澤田久夫校長）の学校農園「伍三郎農園」で、同校児童90人と町立第3保育所の4、5歳児22人がトウモロコシの収穫作業を行いました。

このトウモロコシは、3月に同校児童が種をまき、児童のほか、地域住民や保護者、PTAの協力の下、立派な実を实らせました。

「農園のお世話をしてくださった方々に感謝して、収穫の喜びを味わってください」という校長先生の言葉を受け、子どもたちは自分の背丈よりも大きく育ったトウモロコシ畑へ。上級生が優しく手を貸して園児たちも上手にもぎ取り、あつという間にコンテナはいっぱいになりました。収穫後は、生で食べられるもぎたてのトウモロコシを試食。先生たちが心配するほど、もりもり食べていました。

車いすを贈り社会貢献

JAM井関農機労組から熊東園へ

7月13日、JAM井関農機労働組合熊本支部青年女性部（代表・篠崎俊典さん）から知的障害者更生施設熊東園へ車いす1台が贈られました。

この活動は、井関農機が社会貢献活動として4年前から行っているもので、今回は家庭や工場から出るプルタブ（空き缶のふた部分）やアルミ缶などの有価物を1,000kg集め、業者に売却することで、車いす1台分の基金を集めました。

篠崎さんらが「益城町の皆さんのお役に立てるよう、今後もこの活動を続けていきます」と車いすを手渡すと、永田耕司施設長は「足の不自由な入所者もいますので助かります。大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。



車いすを贈る井関農機の皆さん（写真左）

慎重に8の字走行を行う大谷君



ルールを守って自転車競技

子ども自転車県大会で益城中央小が5位

7月9日、町総合体育館で熊本県交通安全子ども自転車大会（全22チーム）が開催され、御船地区大会で優勝した益城中央小6年の田代光さん、角川友章くん、大谷凌介くんと5年の前田まつりさんが出場し、見事5位に入賞しました。

大会は、学科テストのほか、交通ルールを守りながら走行する「安全走行テスト」とS字走行、ジグザグ走行などを行う「技能走行テスト」の2種目の実技テストがあり、得失点を競いました。

ほとんど毎日、練習を積み重ねて挑んだこの大会。田代さんは「団体優勝をめざしていたので残念だったけど、練習の成果を発揮できたので良かった」と清々しい表情で語っていました。